

## 国のアレルギー疾患医療提供体制のイメージ

	臨床	情報提供	研修	研究
<p><b>中心拠点病院</b> (成育/相模原)</p> <p><b>県拠点病院(群)</b> (都道府県毎を想定) ↓ 1~2か所程度/県</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高度な医療 (専門医等による診断と治療方針の決定)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>- 重症例</li> <li>- 診断困難例</li> <li>- 多科連携が必要な例等</li> </ul> </li> <li>患者相談                             <ul style="list-style-type: none"> <li>- セカンドオピニオン外来等を利用等</li> </ul> </li> </ul>	<p>情報センター事業(仮)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ウェブサイト</li> <li>メール相談 (医療従事者向け、一般向け)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>疫学研究</li> <li>臨床研究</li> <li>基礎研究</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>現体制での通常診療                             <ul style="list-style-type: none"> <li>- 紹介・逆紹介の徹底</li> <li>- 転院時連携の実施等</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種情報提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門医向け研修会</li> <li>研修教材作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医師向け研修会</li> <li>コメディカル向け研修会</li> </ul>

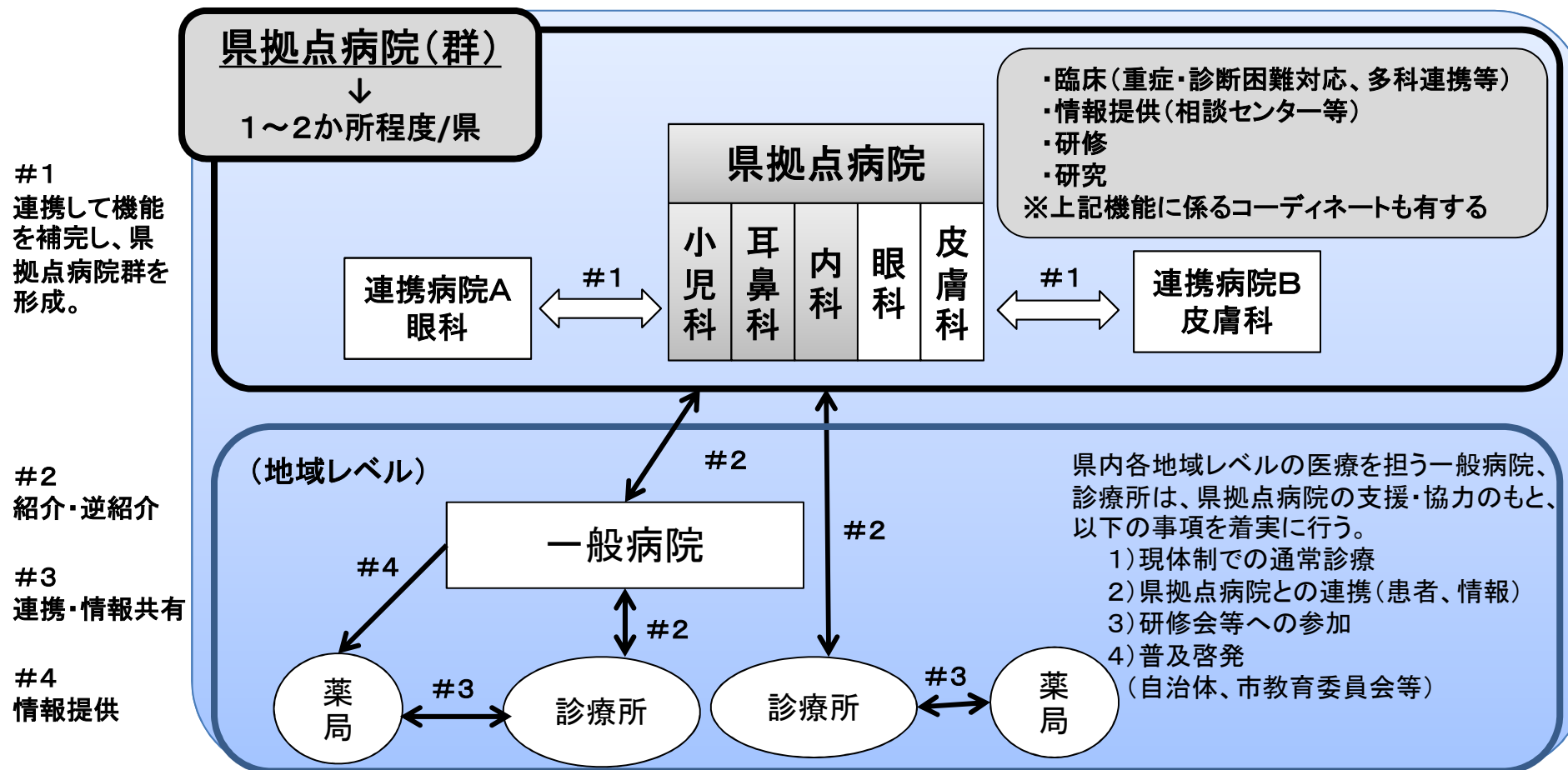
(アレルギー疾患医療の在り方に関する班会議(H28年厚労科研海老澤班)報告書(一部改変))

### 全国拠点病院連絡会議(仮)

- 全国の県/中心拠点間での情報共有、意見交換
- アレルギー疾患対策推進協議会と連動

# アレルギー疾患医療提供体制に関する議論のたたき台

## 都道府県のアレルギー疾患医療提供体制のイメージ



(アレルギー疾患医療の在り方に関する班会議(H28年厚労科研海老澤班)報告書(一部改変))

### 都道府県地域連絡協議会(仮)

- 各都道府県において、拠点病院を中心とした診療連携体制、人材育成、情報提供等が円滑に進むよう協議を行う場が必要ではないか。
- 協議会はどのようなメンバーで構成すべきか。

# 県拠点病院に求められる役割(例)

		臨床	情報提供	
小・成 共通	アレルギー全般	アレルギー原因同定(環境・食物・薬物等)・検査・管理	診療所・一般病院との病診・病病連携(診療情報提供資材の共通化)	
		アレルギー免疫療法実施(舌下・皮下)	地域拠点病院間での連携	
		アナフィラキシーの包括的な専門診療	一般患者への情報提供および講演会の開催	
		アレルギーを診察する他科との連携(周辺疾患の鑑別、症例検討等)	患者の医療相談への対応・セカンドオピニオン	
	気管支喘息関連	急性発作管理	アレルギー疾患診療可能施設の情報提供	
		肺機能検査・気道過敏性試験・NO測定等	医師・コメディカル・行政への情報発信	
	皮膚領域	重症アトピー性皮膚炎の管理	<b>研修</b> 初期臨床研修医に対する指導教育 専門医の育成 アレルギー診療連携登録医(仮称)の研修会 専門的なコメディカルの育成 コメディカルとの研修会 行政・教育機関との連携・助言	
		接触皮膚炎のアレルギー同定		
		刺激誘発性蕁麻疹の誘因の確定		
		重症薬疹の治療		
		遺伝性血管性浮腫など、生命に関わる蕁麻疹の診断と治療		
	耳鼻咽喉科領域	アレルギー性鼻炎の正確な診断		
		下気道、眼、皮膚疾患に影響する鼻・副鼻腔疾患の診断、治療		
	眼科領域	重症および難治アレルギー性眼疾患の診断・治療		
重症アレルギー眼疾患に対して外科的な処置やステロイド注射				
食物アレルギー関連	食物経口負荷試験(運動誘発を含む)	<b>研究</b> 中心拠点との研究協力体制 大規模疫学研究の推進 臨床研究(多施設等)の推進 基礎研究との連携		
小児	気管支喘息関連			重症例の長期管理
	食物アレルギー関連			経口免疫療法
成人	重症難治アレルギー性呼吸器疾患			中等症から重症の気管支喘息長期管理
				気管支鏡検査実施可能(検査医師在籍)